



「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」とは

日本は19世紀後半から20世紀初頭にかけて、製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業の重工業分野で急速な産業化を遂げました。

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は、急速な産業化の過程を時間の流れに沿って示す一連の産業遺産(現役の産業施設も含む)で構成されています。

資産は8県11市に立地し、地理的には分散していますが、構成資産全体で「西洋の科学技術と伝統的な日本の文化や技術が適合し、極めて短期間で産業化を成し遂げたことが世界的にも極めて類まれである」などの顕著な普遍的価値を有し、日本で初めての本格的なシリアルノミネーション※による登録を目指しています。

※シリアルノミネーション

複数の資産を、同じ歴史-文化群のまとまりとして関連づけ、全体で顕著な普遍的価値を有するものとして、世界遺産に推薦すること



※エリア番号は、産業化の過程を時間の流れに沿って順番づけているものです。

エリア	構成資産
1 萩	萩反射炉
	恵美須ヶ鼻造船所跡
	大板山たたら製鉄遺跡
	萩城下町 松下村塾
2 鹿児島	旧集成館
	旧集成館機械工場
	旧鹿児島紡績所技師館
3 葦山	葦山反射炉
4 釜石	橋野高炉跡および関連遺跡
5 佐賀	三重津海軍所跡
6 長崎	小管修船場跡
	長崎造船所(第三船渠、旧木型場、 ジャイアント・カンチレバークレーン、占勝閣)
	高島炭坑
	端島炭坑 旧グラバー住宅
7 三池	三池炭鉱(宮原坑、万田坑、専用鉄道敷跡)
	三池港
	三角西(旧)港
8 八幡	八幡製鐵所(日本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場、 遠賀川水源地ポンプ室)



旧集成館(反射炉跡)

9月17日、旧集成館機械工場(現を含む)「明治日本の産業革命遺産」ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が決定しました。

2015年度の世界遺産登録に向けた連携しながら全力で取り組んでい

※世界文化遺産

顕著な普遍的価値を有する記念物、



北朝鮮による拉致問題の一刻も早い解決を目指して！

1970年代から80年代にかけて、北朝鮮による日本人の拉致が多発しました。現在本県出身の2人を含む17人の方が政府において拉致被害者と認定されているほか、拉致の可能性を否定できない方々が多数おられます。北朝鮮による人権侵害である「拉致問題」の早期全面解決に向けた各種取り組みについて、県民の皆さまの温かいご支援とご理解をお願いします。

政府が認定した本県出身の拉致被害者



市川 修一さん
(当時23歳)



増元 るみ子さん
(当時24歳)

昭和53年8月12日、市川修一さんと増元るみ子さんは、「夕日を見に行く」と言って吹上浜海岸に出かけたまま行方不明になりました。

北朝鮮に拉致され、今年で35年目を迎えましたが、いまだに帰国のめどが立っていません。

また、公開されている特定失踪者の中に本県関係者が11人おられます。詳しくは、県ホームページをご覧ください。

※「特定失踪者」とは、民間団体である「特定失踪者問題調査会」が、「北朝鮮による拉致かもしれない」というご家族の届出などを受けて、独自に調査の対象としている失踪者のことです。

ブルーリボンを知っていますか？

ブルーの色は、日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」、そして被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしています。「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じている」意志表示です。

12月10日から16日までは「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です

県では、一人でも多くの県民の皆さまに拉致問題について理解を深め、関心を持ち続けていただくために、写真パネル展を開催するほか、DVDの上映やポスター・チラシの配布、テレビ・ラジオなどによる周知・啓発を行っています。

この機会に拉致問題について考えてみませんか。

※パネル展の開催期間や会場については、県ホームページでご確認ください。

被害者全員が祖国の土を踏むまで

私たちを含め、いまだ再会を果たせぬ家族は、活動を続けています。心がくじけそうなときに「頑張って体に気をつけて。一刻も早い解決を願っているよ。応援しているよ」という温かい励ましをいただくのが一番嬉しいです。

また、理解の輪が広まっているのも心強いです。国が人間本位の観点からしっかりと北朝鮮に意見を伝え、ぶれることなく対応していくためにも、県民の皆さんの後押しが欠かせません。

皆さんに期待することは、被害者全員が祖国の土を踏むまで、拉致問題に関心を持ち続けていただくことです。風化してしまうことが、一番怖いことです。



市川 健二さん
本県の拉致被害者である市川修一さんの兄。「家族会」救う会と共に、全国各地で署名、集会などの活動に取り組んでいます。